

2022 年度スタンフォード大学連携科目（第 8 回）「シリコンバレーや米国組織におけるリーダーシップ」を開催しました

2022 年 7 月 30 日（土）、スタンフォード大学 SPICE と HBMS が共同で開発したプログラム「スタンフォード大学連携科目」の 第 8 回目の講義を Zoom で開催しました。

各授業では、授業の一週間前にスタンフォード大学の学習管理システム”Canvas”で事前に資料を読み意見を投稿し、前日までにその意見にコメントしあい、意見交流をします。

今回の資料は以下の 5 つで、

- スタートアップの急成長を可能にするリスクマネー
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2019/1102/f5a57d4db5340f6b.html>
- なぜ、日本企業はリスク回避的なのか？
https://www.hit-u.ac.jp/hq-mag/research_issues/430_20210701/
- コーポレートイノベーションに関する現状
<https://www.ipa.go.jp/files/000079671.pdf>
- 【後編】シリコンバレーの日本企業が陥る、10 のワーストプラクティス
<https://techblitz.com/stanford-worst-practices-second/>
- 200 社以上の CVC（コーポレートベンチャーキャピタル）を一覧で総まとめ！
<https://kigyolog.com/article.php?id=46>

ディスカッショントピックは以下の 3 点でした。

(1) 大手日系企業などが考えるリスクと、シリコンバレーで謳われるリスクにはどういった類似点・相違点があるだろうか？また、日系企業がスタートアップとうまく連携していく上で、リスクに対する捉え方と理解が非常に鍵となってくる。どうしたら伝統的な risk-averse な日本カルチャーから変換を遂げられるだろうか？

(2) 「シリコンバレーの日本企業が陥る、10 のワーストプラクティス」の記事を読み、下記のポイント、または他に気づいたポイントについて自分の考えを述べよ：

- これらのプラクティスに陥る日本の会社や経営者の考え方に共通するものは何か？問題があるとすればそれは何か？
- ここに挙げられた 10 のワーストプラクティスの他にも、日本に会社や経営者が陥りやすい問題があるか。
- 仮に、これらのプラクティスに現れる日本の会社や経営者の考え方が、シリコンバレーのスタートアップにとってプラスとなりうる面はあると思うか。あるとすればどんな形でだろうか。

(3) ゲストの石井さんに聞きたいことや、クラス中にディスカッションで取り上げたいポイント（興味を持った点、疑問に思った点など）

ゲストの講演

今回のゲストは、早稲田大学政治経済学部を卒業後、みずほ銀行を経て Plug and Play Tech Center で Director を務める石井 莉咲さんで、「日本から進出する企業サポート+リスクマネジメント」という講演をしてくださいました。

石井さんには、日本から進出する企業サポートとして Plug and Play の役割、事業会社とスタートアップ企業の関わり方、およびリスクマネジメントとしてベンチャー・キャピタル（以下、VC）ならびに事業会社の視点からお話をいただきました。

Plug and Play のビジネスは VC、アクセラレータプログラム、コーポレートイノベーションの3つから構成されており、特徴あるコンソーシアム型のアクセラレータプログラムにより世界各国のリーディングカンパニーとともに多くのスタートアップ企業を支えています。

また培われた経験からオープンイノベーション実現までのステージになぞって日本企業のよくある失敗談、ベストプラクティスとして①事業連携、②R&D を主目的とする共同開発、③CVC 投資を解説いただきました。

VC からの視点でのリスクマネジメントは10年生存率が10%を切るスタートアップ企業にいかにか効率よく投資するかという観点で、事業内容よりも重視すべきは運営する“人”であることを教えてくださいました。

事業会社からの視点でのリスクマネジメントはデューデリジェンスには限界があり情報の非対称性の補完に VC の活用をお勧めすることを提案されました。

講演後の質疑応答

前提としてシリコンバレーには不確実な出会いによるイノベーションを興す場を提供されるが、そこに入り込むための一歩踏み出せるマインドセットの重要性について活発な議論が交わされました。

後半は、HBMS の七田教授がコメンテーターとして講義や質疑応答セッションに関する解説と、七田教授の出した課題にグループで取り組みました。

七田教授によると、数々の失敗事例は『シリコンバレーあるある』ではなくて実は『世界あるある』で、日本そのものを海外に引きずっていくとこうならざるを得ない、とのことでした。

七田教授はグループワークに対して、「以下の二点について討議せよ」という課題を設定しました。

1. あなたの所属企業がシリコンバレーに行って事業を立ち上げることになったら、どういう条件をつけるか
2. あなた個人がシリコンバレーとかかわるならどのような方法をとるか

学生はブレイクアウトルームで3,4人のグループに分かれディスカッションし、結果を発表しました。各グループ40分という短い間で2つの課題をまとめました。

所属企業がシリコンバレーに行く場合について、シリコンバレーに与えるものと求めるものを明らかにしてから一定期間の権限移譲を要求するなどの発表がありました。また個人でシリコンバレーと関わる方法について、スタンフォードに留学後就職する、親子移住、日本でシリコンバレーの会社でリモートワークするなどの発表がありました。七田教授からも小さい会社こそチャンスはある、権限移譲にはKPIを決めておくが良い、親子移住は良い、リモートワークは実現性が高いとのコメントをいただきました。